

# 力をくれるごはん

古川中学校（青森市）

三年 小松和佳

ごはん、のり、でんぶ、卵焼き、かんぴょう、きゅうり、紅しょうが。これらの材料からできるのは、『太巻き』だ。少し甘めの味付けで食べごたえのあるこの太巻きを、私もよく好んで食べていた。また、太巻きの材料にもなっている、私たち家族が普段食べているお米は、父方の祖父が栽培してくれたものだ。毎日おいしくいただいている。

太巻きは、母方の祖母の得意料理の一つだった。料理上手な祖母は、私が小さい頃から何かお祝い事がある度に、赤飯、ハンバーグ、ロールキャベツなど、たくさん料理を振る舞ってくれた。テーブルいっぱいのごちそうを、家族みんなで集まって食べる。食卓にはいつも笑顔が絶えなかった。でも今は、祖母の太巻きを食べることができない。祖母は、母が八歳の頃から難病におかされていた。そして四年前に突然亡くなってしまったのだ。

私が小学生になった頃、祖母の体調が崩れやすくなり、入退院を繰り返していた。以前のように料理をつくる姿もあまり見かけなくなった。それでも、体調が良い時に作ってくれた料理は、やはりおいしかった。祖母が亡くなる前に最後に作ってくれたのが、太巻きだった。

四年前の八月下旬、祖母は救急車で病院に運ばれた。すぐに帰ってくるだろうと思っていたが、治療のために一か月入院、そして絶食することになった。祖母は毎日苦しそうだった。とてもかわいそうだったが、私は、「もう少しの我慢。」

としか言えなかった。母によると、祖母は亡くなる数日前にも、同じ病室の患者さんに料理のアドバイスをしたり、

「熱々のごはんの上にみそカツをのせて食べたい。」

と話したりしていたそうだ。担当医から食事の許可が下りた時も、本当に嬉しそうに手をたたいて喜んでいた。しかし、その日の夜から容体が急変し、何も食べられないまま息を引き取ってしまった。あんなに料理すること、食べることが好きだった祖母が、一か月何も食べずに亡くなってしまった。母はよく、

「亡くなるのが分かっていたのなら、命の期限が短くなったとしても、最期に好きなものを食べさせてあげたかった。」

と言っている。食物を口から摂取することは、いちばんのエネルギーになるそうだ。何も食べられずに元気がなくなつた祖母を見て、そのことを実感した。

最近は朝ごはんを食べない若者が多いという話をよく聞か、必要な栄養素を取り入れ、エネルギーにするために朝ごはんを食べる必要があると思う。

ごはんを食べるときによく母に言われていたのが、『ごはん粒を一つでも残してはならない。』だった。農家の方が汗水垂らして大切に育てたお米だから、感謝の気持ちを忘れず、残さず食べるべきなのだ。また、食事の際は家族全員そろって食べるようにした。会話でコミュニケーションをとることができる。

これらのことは、母も小さい頃に祖母に教わっていた。そして今は母が、私たちにつなげてくれている。毎日当たり前のように食べられるお米、心のこもった料理が私たちのパワーの源となっている。また、祖母の料理には「みんなの笑顔が見たい」という思いがこめられていたのだと思う。その思いが、さらに私たちに力をくれた。当たり前の大切さやごはんを作ってくれる人へ感謝し、これからもごはんを楽しく食べたい。いつかは私も、祖母のような太巻きをつくれたらいいなと思う。